

物語教材の視点布置 —一人称表現の選択と読みの階梯—

船 所 武 志

小学校の物語教材には、低学年・中学年・高学年とそれぞれに物語構造を中心として、表現の特性が認められた(船所2006b・2007・2008)。低学年においては、時間や空間の順序性が際立つ物語が中心である。中学年では、物語に流れる時間とは異なる場面構成が選択されることが注目された。そこには、ストーリーからプロットを際立たせる読みへの誘いがみられる。高学年では、象徴性が際立たされてくる。そのような表現の特性が認められることが、読み手(児童)にとっての「読みの方法」を示唆する指針とも解釈しうる。なお、1年教材において、三人称客観視点が際立ったことから、本稿では、小学校1年から中学校3年までの物語・小説教材の視点布置による人称表現の選択に着目して、そこに、読みの階梯が見出しうることを明らかにした。管見によれば、これまで、人称表現の選択に関して、学年を追うごとの特徴などの整理はなかったようである。

結論として、子どもが物語と出合う際には、〈三人称視点〉から始まり、〈客観〉から〈限定／全知〉を経て、〈一人称視点〉の物語・小説へと進むことが認められた。

「限定」「非限定」で換言すると、〈非限定視点〉⇒〈限定視点〉という階梯を認めることができた。

キーワード：物語構造、視点布置、人称表現、読みの階梯、読解力

1. 物語構造と視点

物語の構造は、表現主体が、虚構の世界を構築し、その世界に生きる人物を創造することに始まる。語る主体と語られる客体とが認められるが、単純に分かたれるものではない。寧ろ、様相は複雑化を呈する。敢えて単純化するならば、表現主体(作者)が設定する語る主体(語り手)によって、物語世界が語られることになる。その物語世界には、複数の登場人物がかかわる関係が構成されて、出来事(事件)が発生する。語る主体(語り手)は、語られる物語世界に人物として登場することもあり、主人公となることもある。そうした語る主体(語り手)をも含めて作品世界となる。

語る主体(語り手)が、物語世界に人物として登場する場合は、〈一人称視点〉の物語となる。特に、語る主体(語り手)が主人公として登場する場合に、「私小説」としての様相を呈する。物語教材においても、その萌芽が認められる。語る主体(語り手)が、物語世界の登場人物とは別個の存在として認められる場合において、〈三人称視点〉の物語となる。登場人物を対象人物として客体化する。完全に客体化し、登場人物の心中を「地の文」で描写することがない場合、〈三人称客観視点〉の物語となる。登場人物の心中は、専ら会話描写か行動描写から読

み取ることになる。一方、全ての登場人物に対して、語る主体（語り手）の出入りが自由に可能となり、必要に応じて登場人物の心中を描写する場合、〈三人称全知視点〉の物語となる。主人公または、特定の登場人物の心中が語られる場合、〈三人称限定視点〉の物語となる。また、〈二人称視点〉の物語も理論上可能であり、その具体的考察が、野村（2014）に詳しい。物語教材においては、〈二人称視点〉を選択することは、読者に高度な読みを要求することになるからか、見受けられない。したがって、本稿の考察では、〈一人称視点〉、〈三人称視点〉を中心に、それぞれの学年に配当された物語教材がどのような「視点布置」を取り、どのような「人称表現」を選択しているのか、を考察することとする。

2. 視点布置と人称選択

2. 1. 小学校教科書の物語教材

2. 1. 1. 低学年の物語教材

小学校低学年の物語教材では、概ね〈三人称視点〉がとられている。1年の初めには、〈三人称客観視点〉がとられるという特徴を示している。1年上から2年下にかけて、基本的には〈三人称視点〉であるが、その内実は、客観視点から限定視点へとの移行が認められる。〈三人称客観視点〉・〈三人称全知視点〉という〈非限定視点〉から〈三人称限定視点〉という〈限定視点〉への移行とみることができよう。以下、平成22年検定の現行教科書の1年ならびに2年の物語教材一覧を示す。

【表1】小学校1年の物語教材一覧

	上	下
学図	いいもの みつけた③ たぬきの じてんしゃ③ おおきな かぶ（うちだ りさこ訳）③ うみの みずは なぜ しょっぱい（きさかりょう）③	はじめは 「や！」（こうやま よしこ）③ ろくべえ まってるよ（はいたに けんじろう）③
教出	けむりの きしゃ③ おおきな かぶ（うちだ りさこ訳）③ けんかした 山（あんどう みきお）③	りすの わすれもの（まつたに みよこ）③ 天に のぼった おけやさん（みずたに しょうぞう）③ うみへの ながい たび（いまえ よしとも）③ お手紙（アーノルド＝ローベル文、みき たく訳）③
東書	あめですよ（とよた かずひこ文）③ かいがら（もりやま みやこ文）③ おおきな かぶ（うちだ りさこ訳）③	サラダで げんき（かどの えいこ文）③ おとうとねずみ チロ（もりやま みやこ文）③ 花 いっぱいに なあれ（まつたに みよこ文）③ 花さかじい（まつたに みよこ文）③

物語教材の視点布置

光村	はなのみち③ おむすび ころりん③ おおきな かぶ (ロシアのみんわ) ③ ゆうだち③	くじらぐも (なかがわ りえこ) ③ まの いい りょうし (いなだ かずこ・つつい えつこ文) ③ ずうっと、ずっと、大すきだよ (ハンス・ウイルヘルム 作、ひさやま たいち訳) ① たぬきの 糸車 (きし なみ) ③ だって だつての おばあさん (さの ようこ) ③
三省堂	にくを くわえた いぬ (かわさき ひろし) ③ どうぞの いす (こうやま よしこ) ③ おおきな かぶ (アレクセイ＝トルストイ再話、うちだ りさこ訳) ③	あいして いるから (マージョリー＝ニューマン作、ひさやま たいち訳) ③ いなばの 白ウサギ (みやかわ ひろ) ③ 夕日の しずく (あまん きみこ) ③

注：①、③は、それぞれ一人称視点の物語、三人称視点の物語を表す。

太字は、複数の教科書会社で取り上げられている教材。

学図は学校図書、教出は教育出版、東書は東京書籍、光村は光村図書の略。

【表 2】小学校 2 年の物語教材一覧

	上	下
学図	花 いっぱいに なあれ (まつたに みよこ) ③ スイミー (レオ＝レオニ) ③ ヤマタノオロチ (きさか りょう) ③ 夕日のしずく (あまん きみこ) ③	かさこじぞう (いわさき きょうこ) ③ お手紙 (アーノルド＝ローベル作、みき たく訳) ③
教出	ひっこして きた みさ (あんどろ みきお) ③ いなばの しろうさぎ (ふくなが たけひこ) ③ きつねのおきやくさま (あまん きみこ) ③	わにのおじいさんのたからもの (かわさき ひろし) ③ かさこじぞう (いわさき きょうこ) ③ ないた赤おに (はまだ ひろすけ) ③ アレクサンダとぜんまいねずみ (レオ＝レオニ) ③ ちょうちょだけに、なぜなくの (かんざわ としこ) ③
東書	かくれんぼ (たけした ふみこ) ③ お手紙 (アーノルド＝ローベル) ③ あしたも 友だち (うちだ りんたろう) ③	名前を 見て ちょうだい (あまん きみこ) ③ かさこじぞう (いわさき きょうこ) ③ ニャーゴ (みやにし たつや) ③
光村	ふきのとう (くどう なおこ) ③ いなばの 白うさぎ (なかがわ りえこ) ③ スイミー (レオ＝レオニ) ③ 黄色いバケツ (もりやま みやこ) ③	お手紙 (アーノルド＝ローベル作、みき たく訳) ③ わたしはおねえさん (いしい むつみ) ③ スーホの白い馬 (おおつか ゆうぞう) ③ 十二支のはじまり (たに しんすけ) ③ 三まいのおふだ (せた ていじ) ③
三省堂	たろうの ともだち (むらやま けいこ作) ③ お手紙 (アーノルド＝ローベル作、みき たく訳) ③ きつねのおきやくさま (あまん きみこ作) ③ かさこじぞう (いわさき きょうこ) ③ フレデリック (レオ＝レオニ) ③ スーフと馬頭琴 (モンゴル民話・藤 公之介再話) ③ 古屋のもり (坪田譲治) ③	

光村図書の教材を例にその詳細をみてみよう。

1 年上：『はなのみち』『おむすびころりん』『おおきなかぶ』『ゆうだち』⇒〈三人称客観視点〉

1 年下：『くじらぐも』『まのいいりょうし』⇒〈三人称客観視点〉

『たぬきの糸車』『だってだってのおばあさん』⇒〈三人称限定視点〉

『ずうっと、ずっと、大すきだよ』⇒〈一人称視点〉

2 年上：『ふきのとう』『いなばの白うさぎ』⇒〈三人称客観視点〉

『スイミー』『黄色いバケツ』⇒〈三人称限定視点〉

2 年下：『お手紙』『スーホの白い馬』『十二支のはじまり』⇒〈三人称限定視点〉

／〈三人称全知視点〉

『わたしはおねえさん』『三まいのおふだ』⇒〈三人称限定視点〉

1 年上では、全て、〈三人称客観視点〉の物語教材である。民話素材の『おむすびころりん』では、「そろそろ おむすび たべようか。」「これは これは おもしろい。」の二文で、「おじいさん」に語り手の視点に移入されているとみることができるが、基本的には客観である。1 年の上・下から 2 年の上・下にかけて、大きくは、〈三人称客観視点〉から〈三人称限定視点〉への流れが認められる。

光村図書以外では見受けられない〈一人称視点〉の物語として、『ずうっと、ずっと、大すきだよ』が異彩を放っている。「学習のてびき」が示すように、主人公の「ぼく」を客体化する読みが期待されている。

▶「ぼく」に、なんと いって あげたいですか。ともだちと はなしましょう。

この問いかけが、読み手から「ぼく」を対象人物として客体化する。読み手の視点移入を妨げる表現であるので、「ぼく」という一人称が用いられているが、寧ろ、「ぼく」という三人称を意識した読みが求められている。

6 年の『カレーライス』と比べると、その扱いに差が認められる。6 年では、同化する読みが期待されているのに対して、1 年では、異化する読みが期待されている。したがって、本格的な一人称の物語は高学年を俟たなければならない。

1 年上で 5 社すべてが掲載する『おおきな かぶ』は、叙述層分析図を示した通り（船所 2006b）、人物の行動描写を主として、思いは外言するかのようにカギ括弧で括られる。したがって、人物の行動描写と会話描写とで物語世界を構築して、地の文に心中描写が出現しない。〈三人称客観視点〉の典型である。

教育出版では、1 年上だが、他社は 2 年上または下の配当で全社が取り上げる『お手紙』は、基本的には、〈三人称客観視点〉であるが、最終場面で「ふたりとも、とても しあわせな 気もちで、そこにすわっていました。」という一文に、二人の心が描写され、僅かに〈三人称限定視点〉をとる。したがって、概ね〈三人称客観視点〉とみて、僅かに〈三人称限定視点〉

の場面が出現する、と纏め得る。『スーホの白い馬』を例に少し詳しく見てみよう。冒頭は次のように物語が始まっている。

中国の北の方、モンゴルには、広い草原が広がっています。そこにすむ人たちは、むかしから、ひつじや牛や馬などをかって、くらしていました。

このモンゴルに、馬頭琴というがっきがあります。がっきのいちばん上が、馬の頭の形をしているので、馬頭琴というのです。いったい、どうして、こういうがっきができたのでしょうか。

それには、こんな話があるのです。

冒頭、物語世界を語る「語り手」の存在が明示されている。「こんな話」が語られて、冒頭の「語り手」には戻ってこない。〔冒頭の「語り手」⇒語られる物語〕という物語構造が散見される。『ごんぎつね』も同様の構造を持つ。したがって、冒頭は「わたし」という〈一人称視点〉で始まる（語り手としての「わたし」が存在を示すことがある。）が、語られる物語（「むかし、モンゴルの草原に、スーホという、まずしいひつじかいの少年がいました。」で始まる物語）では、〈三人称視点〉となる。主人公「スーホ」についても、行動描写を中心に語られるが、視点移入される個所が以下である。

（とのさまに白馬をとり上げられ、きずやあざだらけで帰ってきた後、）……白馬をとられたかなしみは、どうしてもきえません。白馬はどうしているだろうと、スーホは、そればかり考えていました。白馬はどうなったのでしょうか。

すばらしい馬を手に入れたとのさまは、まったくいい気もちでした。もう、白馬をみんなに見せびらかしたくてたまりません。

「スーホ」の心中が描写される場面である。「白馬はどうしているだろう」の叙述は、「スーホ」の心中を描写しているが、文末形態が「です・ます」のため、読み手に対しての意識が加わる。よって、「白馬はどうなったのでしょうか。」では、物語現在、「白馬」がいる「とのさま」の下へと、視点や場面は大きく転換を果たす。「舞台回し」の役割をも担う。上の引用後半部や「スーホ」の帰宅が遅い時の「おばあさん」の心配する様子など、さまざまな登場人物に視点の移入があるが、物語後半、白馬が逃げ戻って死に至ると、「スーホ」の心の中を主に描き出していく。〈三人称全知視点〉の側面を持ちつつ、主人公「スーホ」を主とする〈三人称限定視点〉と考える。〈三人称客観視点〉から〈三人称限定視点〉への流れは、実際のところ、〈三人称全知視点〉の様相も加わって一様でないのだが、以下のような図式が見えてくる。

〈三人称客観視点〉⇒〈三人称全知視点〉／〈三人称限定視点〉⇒〈一人称視点〉

これを「限定」・「非限定」で換言すれば、以下のような図式となる。

〈非限定視点〉⇒〈限定視点〉

明瞭な〈限定視点〉の物語教材は、少し対象学年が上がらなければならない。

2. 1. 2. 中・高学年の物語教材

低学年の物語教材で、〈三人称客観視点〉⇒〈三人称全知視点〉／〈三人称限定視点〉⇒〈一人称視点〉への流れを指摘し、換言すれば、〈非限定視点〉⇒〈限定視点〉への大きな階梯を見ることができた。ここでは、これまでの【表1】、【表2】の形式とは異なって、3年から6年までを見通しておきたい。ここでも一例として、光村図書をとり上げ、他の出版社については、資料として末尾に付すこととする。

【表3】 小学校3年～6年の物語教材（光村図書）

	上	下
3年	きつつきの商売（林原玉枝）③ 海をかつとばせ（山下明生）③ いろはにほへと（今江祥智）③ ばけくらべ（松谷みよ子）③	ちいちゃんのかげおくり（あまん きみこ）③ 三年とうげ（李錦玉）③ モチモチの木（斎藤隆介）③
4年	白いぼうし（あまん きみこ）③ 一つの花（今西祐行）③ かげ（ニコライ＝スラトコフ作、松谷さやか訳）③ 茂吉のねこ（松谷みよ子）③	ごんぎつね（新美南吉）③ 三つのお願い（ルシール＝クリフトン作、金原瑞人訳）① 初雪のふる日（安房直子）③ 額に柿の木（瀬川拓男）③
5年	あめ玉（新美南吉）③ のどがかわいた（ウーリー＝オルレブ作、母袋夏生訳）① 大造じいさんとガン（椋 鳩十）③ わらぐつの中の神様（杉 みき子）③ 幽霊をさがす（マーガレット＝マーヒー作、石井桃子訳） 雪女（松谷みよ子）③	
6年	カレーライス（重松 清）① やまなし（宮沢賢治）③ 海の命（立松和平）③ 河鹿の屏風（岸 なみ）③	

3年下『ちいちゃんのかげおくり』では、「出征する前の日、お父さんは、ちいちゃん、お兄ちゃん、お母さんをつれて、先祖のはかまいりに行きました。」と冒頭場面に描かれている。主人公「ちいちゃん」の目から見た空襲とその後の光景が捉えられた物語である。したがって、冒頭場面の叙述では、すべての登場人物が「ちいちゃん」から見た呼称で統一されている。「語り手」の視点は、「ちいちゃん」に移入される。典型的な〈三人称限定視点〉の物語である。

物語の最終場面は、以下のようになっている。

それから何十年。町には、前よりもいっぱい家がたっています。ちいちゃんが一人でか
げおくりをした所は、小さな公園になっています。

青い空の下、今日も、お兄ちゃんやちいちゃんぐらいの子どもたちが、きらきらわらい
声を上げて、遊んでいます。

この場面の直前は、「夏のはじめのある朝、こうして、小さな女の子の命が、空にきえました。」
とあり、「ちいちゃん」は亡くなったので、「何十年」後に、振り返る人物はいない。よって、「語
り手」が主体的に振り返りうる存在である。ただ、現在の状況を客観的に叙述しているので、
戦時下における状況との差異が際立つ。

4年下の『ごんぎつね』は、五社すべてが掲載する定番の物語である。冒頭場面では、「語り手」
の存在が明示され、「語り手」による解説を経て、物語世界へと誘われる。

これは、わたしが小さいときに、村の茂平というおじいさんから聞いたお話です。

昔は、わたしたちの村の近くの中山という所に、小さなおしろがあって、中山様という
おとの様がおられたそうです。

その中山から少しはなれた山の中に、「ごんぎつね」というきつねがいました。ごんは、
ひとりぼっちの小ぎつねで、しだのいっぱいしげった森の中に、あなをほって住んでいま
した。そして、夜でも昼でも、辺りの村へ出てきて、いたずらばかりしました。畑へ入っ
ていもをほり散らかしたり、菜種がらのほしてあるのへ火をつけたり、百姓家のうら手に
つるしてあるとんがらしをむしり取っていったり、いろんなことをしました。

上記の冒頭場面が続いて、「ある秋のことでした。」との叙述から物語世界の時間が動くこと
になる。「語り手」は、冒頭、前口上としての説明・解説を行っている。「語り手」の「わたし」
は、物語世界には姿を見せないのので、物語は〈三人称限定視点〉を取ることになる。教科書では、
文章構造上、1から6の場面に分かれていたが、「語り手」の前口上と物語世界とを隔てて、
「ある秋のことでした。」からを、場面1とすることに妥当性があると思量する。

〈三人称限定視点〉の人物限定は、場面1から場面6のはじめまでが、「ごん」で、場面6の
途中から、「兵十」に視点人物が移行される。場面6「そのとき兵十は、ふと顔を上げました。と、
きつねがうちの中へ入ったではありませんか。こないだ、うなぎをぬすみやがったあのごんぎ
つねめが、また、いたずらをしに来たな。」の叙述で、「語り手」の視点は、「兵十」に注目し、
「兵十」の視点に同化し、「兵十」の心に視点移入していることがわかる。同時に、「ごん」は、
「視点人物」から「対象人物」となる。結末場面は、「ごん」を撃つ「兵十」の心に焦点が当た
る。〈三人称全知視点〉ではなく、場面によって「視点人物」を入れ替える〈三人称限定視点〉
である。

4年下からの特徴として、〈一人称視点〉の物語が登場してくることが指摘できる。4年下
の『三つのお願い』（アメリカ）、5年の『のどがかわいた』（イスラエル）は、ともに翻訳作
品である。『三つのお願い』は、冒頭場面が以下のように始まる。

こんなことがあると願いがかなうって、よく言うよね。わたしが知ってるのに、こんながあるんだ。一月一日に、自分が生まれた年にできた一セント玉を拾うと、三つのお願いがかなうっていうの。まさかと思うかもしれないけれど、これは、わたしに起こったほんとの話なんだ。

冒頭場面では、「語り手」としての「わたし」が、「読み手」に対して語りかける前口上である。この「わたし」が、続く物語の主人公で「語り手」を兼ねる。一方、『のどがかわいた』の冒頭場面は、以下である。

ぼくたちの寄宿学校に、今年になって転校してきたエルダッドは、ぼくがゆっくり水を飲もうとすると、じゃまする。みんなといっしょにならんで、冷たい水道のじゃぐちに飛び付いているときでも、うるさい。

『のどがかわいた』の冒頭場面では、主人公「ぼく（イタマル）」は「語り手」としての前口上を述べるのではなく、物語世界に身を置き、視点人物として機能する。文末形態が、「タ」形でなく、非「タ」形（「ル」形）を取っていることから、物語の時間は流れず、よって、説明的な叙述となる。

〈一人称視点〉の「わたし」は、物語世界の外部では、「語り手」としての機能を果たすが、物語世界の内部では、「視点人物」としての機能を果たす。物語は、水を飲むという行為に対して、共通の感覚を抱く同室の者との交流が描かれる。〈一人称視点〉の物語では、「視点人物」の「わたし／ぼく」の心の中が描き出されてくる。4年の後半から5、6年の高学年で、散見されるようになるには、「読み手」の心の状況（発達）と相俟って、より深く自己の心中を捉えるようになることが期待されている。6年の『カレーライス』では、現代日本の一般家庭における、父と子の関係が描き出されている。個別の状況は異なるものの、父と子の心の関係が象徴的に描かれていて、「読み手」それぞれの立場で具体的に受け止めることができよう。冒頭場面は、以下である。

ぼくは悪くない。

だから、絶対に「ごめんなさい。」は言わない。言うもんか、おとうさんなんか。

「いいかげんに意地を張るのはやめなさいよ。」

お母さんはあきれ顔で言うけど、あやまる気はない。先にあやまるのはお父さんのほうだ。

冒頭の場面から、「視点人物」である「ぼく」の父親に対する不満が溢れ出ている。物語世界の内部に「読み手」を引き入れて、「ぼく」の不満が解消されるまで、「読み手」も「ぼく」に寄り添いながら、物語世界を経験することになる。

教材の後に置かれている「学習の手引き」でも、「視点」に言及している。

「カレーライス」は、「ぼく（ひろし）」の視点で書かれている。どのような表現によって、「ぼく」の心の状態がえがかれているか、本文の記述を追って、ていねいに読もう。そして、同じような心のゆれ動いた、あなた自身の体験について考えよう。

先に指摘した、1年の物語教材『ずうっと、ずっと、大すきだよ』の「てびき」にあった【▶「ぼく」に、なんと いって あげたいですか。】との違いが歴然としている。高学年に及んで、〈一人称視点〉の物語の機能やその必然性が明瞭になってくる。「読み手」の心の発達とも相俟って、〈一人称視点〉の物語が散見されるようになると、中学校での物語教材には、この〈一人称視点〉の物語が多くみられるようになるものと予想される。

2. 2. 中学校教科書の物語教材

中学校の物語教材について、光村図書を例に一覧を示す。他の出版社については、資料として末尾に付すこととする。

【表4】中学校1年～3年の物語教材（光村図書）

1年	にじの見える橋（杉 みき子）③ 雪とパイナップル（鎌田 實）① 星の花が降るころに（安東みきえ）① 大人になれなかった弟たちに……（米倉斉加年）① 少年の日の思い出（ヘルマン・ヘッセ／高橋健二訳）① * あの坂をのぼれば（杉 みき子）③ 坊ちゃん（夏目漱石）①
2年	アイスプラネット（椎名 誠）① * 旅する絵描き―パリからの手紙（伊勢英子）① 盆土産（三浦哲郎）① * 走れメロス（太宰 治）③ * ゼブラ（ハイム・ポトク／金原瑞人訳）③
3年	握手（井上ひさし）① * 蟬の声（浅田次郎）③ * 高瀬舟（森鷗外）③ * 故郷（魯迅／竹内 好訳）① *

小学校高学年の物語教材と比較してみると、中学校では、予測通り〈一人称視点〉の物語・小説が数を増している。表中、太字で示した三教材は、5社すべてで取り上げられている教材である。また、アスタリスク（*）は、目次で「小説」との表示のある教材である。他は、「物語」という表示がなされている。1、2年の欄で、破線以下の教材名は、資料としての掲載である。

1年の『少年の日の思い出』は、大きく前半と後半とに構成が分かたれる。前半の「語り手」は、「私」であり、その「客」として登場する「友人」が、後半の「語り手（僕）」となる。「僕」の「エーミール」との蝶の標本をめぐる葛藤が、この教材の主題に繋がる。したがって、前半と後半との関

係構成もまた、後半を主とするものである。「語り手」が交代し、ともに〈一人称視点〉を選択している。〈一人称視点〉の二重構造とその関係とを理解する読みが期待されている。後半の「語り手（僕）」の心情を理解するだけでなく、その友人の語りを「読み手」に提供しているのが、前半の「語り手（私）」であること。すなわち、「私」の心情にまで回帰する読みが求められている。

2年の『走れメロス』では、冒頭、「メロスは激怒した。必ず、かの邪知暴虐の王を除かなければならぬと決意した。」という叙述で始まる〈三人称視点〉の作品である。途中「メロス」の葛藤する心が描き出される。主人公「メロス」の心中を中心に、〈三人称限定視点〉と言い得るが、「王」の心中も描き出されている。「メロス」が三日の猶予を懇願した際、「それを聞いて王は、残虐な気持ちで、そっとほくそ笑んだ。生意気なことを言うわい。どうせ帰ってこないに決まっている。このうそつきにだまされたふりして、放してやるのもおもしろい。そうして身代わりの男を、三日目に殺してやるのも気味がいい。人は、これだから信じられぬと、わしは悲しい顔して、その身代わりの男を磔刑に処してやるのだ。世の中の、正直者とかいうやつばらにうんと見せつけてやりたいものさ。」の叙述がある。一国の王の心の不安定さを浮き彫りにする心中描写と読むことは、少し難しいかもしれないが、物語の末尾での「王」の改心と合わせて読むことができれば容易い。〈三人称限定視点〉の「限定」が、主人公以外に行われるとすると、そこにも「読み」の鍵があると考えられよう。

3年の『故郷』は、冒頭、「厳しい寒さの中を、二千里の果てから、別れて二十年にもなる故郷へ、私は帰った。」で始まる。「寂寥」の感を僅かに押遣るのは、「閩土」との思い出であった。ところが、実際に「閩土」と会うと、「私（迅）」は、立場の隔たりを痛感する。幼い甥の「ホニル」に自身の昔を見るのだが、これまでとは異なった新たな生活を持たなくては、隔絶することない人間関係を維持することが難しい、と思いを巡らす。〈一人称視点〉によって、故郷の風景、再会した人物等々、二十年前との人間関係と自らの心境の変化を具に描き出している。「読み手」自身の「読み」の抽斗やその技術が問われもする作品である。

3 物語教材の教授法—まとめにかえて

子どもが物語と出会う際には、〈三人称視点〉から始まり、〈客観〉から〈限定／全知〉を経て、〈一人称視点〉の物語へと進むようである。以下の図式を提示した。

〈三人称客観視点〉⇒〈三人称全知視点〉／〈三人称限定視点〉⇒〈一人称視点〉

これを「限定」・「非限定」で換言すれば、以下のような図式となる。

〈非限定視点〉⇒〈限定視点〉

小学校の低学年から中学校の物語・小説教材を具体的に、「視点布置」の観点から眺めてみると、上に示したような「階梯」が認められる。文章表現における「視点」と「人称表現」の

問題は、物語から小説へと、学年を追うごとに、子どもたちの成長とも相俟って複雑に教材の中に仕込まれている。そうした変遷は、表層にとどまらず、作品としての教材のもつ奥深さを示し、「読み手」である子どもたちの「読み」の深さや拡がりを促すものである。

〈非限定視点〉から〈限定視点〉の教材と出会うことで、「読み手」である子どもたちは、その視点人物に「同化」する「読み」と「異化」する「読み」とを経験する。「ことば」によって、他者の人生を経験する。「視点」を常に自らに留めるのではなく、いかに、他者へと措定しうるか、が問われる。「読み」の重要な観点として、「視点布置」の課題を提起するものである。

読みの階梯の初期段階では、〈三人称客観視点〉である。物語世界の登場人物は、主人公を含めて、全て客体化されている。低学年とりわけ1年の児童にとっては、客体化されていることで却って物語世界を享受しやすいと思量する。〈一人称視点〉の『ずうっと、ずっと、大すきだよ』の主人公「はく」に対しては、同化するのではなく、異化する読みが求められていたことも一例ではあるが、却って根拠となった。これは、子どもの「自称詞」獲得と物語の読みの形成とに大きくかかわる現象ではないかという「視点論」の課題に繋がるものと思われる。自分自身を指すことばは、物心がついたころには、家族から名前と呼ばれるが、その名前がそのまま自分自身を指す呼称となる。よく知られている童謡の『サッチャン』^(註)がその典型であろう。三人称であるはずの他者からの呼称が自称に使用される。したがって、本来の「自称詞」である「私（僕）」等のことばを獲得するには、他者を意識して自己を認識するプロセスを経る必要があると推察し得る。よって、集団を経験することで、就学時には、多くの児童が「自称詞」を獲得しているであろうが、物語の読みにおいては、〈三人称客観視点〉によるものが、却って、主人公をはじめとする登場人物に同化しやすいと思量する。寧ろ、〈一人称視点〉の物語のほうが、客体化してしまうと推察する。主人公への「同化」は、〈三人称視点〉による物語が、子どもにとっては容易ではないかという仮説を提起しうる。幼い子供にとっては、〈一人称視点〉の物語には、「同化」し辛く、「異化」する読みになるのではないかという推察である。発達過程に加えて、「物語」の享受の仕方（読みの方法）が絡んでくる。

小学校高学年から中学校の物語教材にみられる〈一人称視点〉は、物語の主人公に同化して、「追体験」し、主人公の立場になって生きて考え、物語世界から帰還して、さらに自己を振り返る契機を与える。主体的自我の形成と相俟って、そのような読みの階梯を想定することができよう。その段階に至るまでに、〈三人称全知視点〉／〈三人称限定視点〉の物語を享受することになる。本稿における調査、考察から、人称表現選択状況を具に見渡すことによって、読みにおける階梯としても、この言語現象が認められるものと思量する。授業の実際に関しても、こうした読みの階梯を意識することが求められる。

以上、仮説を提起することで、仮説の検証をさらに重ねていくという課題に関しては、稿を改めて検討する。

【註】

『サッチャン』の歌詞は以下。

サッチャンはね
サチコっていうんだ ほんとはね
だけど ちっちゃいからじぶんのこと
サッチャンって よぶんだよ
おかしいな サッチャン

(作詞：阪田寛夫 作曲：大中 恩) J-Lyric.netによる

【参照・参考文献】

- 糸井通浩 (1986) 「物語・小説の表現と視点」(『表現学論考 第二』) 今井文男先生古稀記念論集刊行委員会
- 糸井通浩 (1993) 「視点と語り」(『表現学論考 第三』) 今井文男先生喜寿記念論集刊行委員会
- 今井文男 (1968) 『表現学仮説』(法律文化社)
- 梶田叡一編著 (1989) 『自己意識の発達心理学』(金子書房)
- 西郷竹彦 (1968) 『教師のための文芸学入門』(明治図書)
- 野村真木夫 (2014) 『スタイルとしての人称—現代小説の人称空間—』(おうふう)
- 船所武志 (2006a) 「文章表現の視点—「視点跨渡」について—」(『四天王寺国際仏教大学紀要』第42号)
- 船所武志 (2006b) 「物語教材の表現特性—小学校低学年を中心に—」(『四天王寺国際仏教大学紀要』第43号)
- 船所武志 (2007) 「物語教材の表現特性 (Ⅱ) —小学校中学年を中心に—」(『四天王寺国際仏教大学紀要』第44号)
- 船所武志 (2008) 「物語教材の表現特性 (Ⅲ) —小学校高学年を中心に—」(『四天王寺大学紀要』第46号)

資料

【表 5】 小学校 3 年～ 6 年の物語教材（学校図書）

	上	下
3 年	つり橋わたれ（長崎源之助）③ あらしの夜に（木村裕一）③ わたしたち手で話します（フランツ＝ヨーゼフ・ファイニク作 ささきたづこ訳）③	モチモチの木（斎藤隆介）③ わにのおじいさんのたから物（川崎洋）③
4 年	白いぼうし（あまん きみこ）③ ポレポレ（西村まり子）① りんご畑の九月（後藤竜二）①	ごんぎつね（新美南吉）③ 世界でいちばんやかましい音（ベンジャミン＝エルキン作、松岡享子訳）③
5 年	トゥーチカと飴（佐藤雅彦）③ 注文の多い料理店（宮沢賢治）③ 父ちゃんの凧（長崎源之助）①	木竜うるし（人形劇）（木下順二）③ 大造じいさんとがん（椋 鳩十）③
6 年	ロシアパン（高橋正亮）①	きつねの窓（安房直子）①

【表 6】 小学校 3 年～ 6 年の物語教材（教育出版）

	上	下
3 年	消しゴムころりん（岡田淳）③ わすれられないおくりもの（スーザン＝バーレイ文・絵／小川仁央訳）③	モチモチの木（斎藤隆介）③ のらねこ（三木卓）③ おにたのぼうし（あまん きみこ）③ ソメコとオニ（斎藤隆介）③
4 年	やい、とかげ（舟崎靖子）① 一つの花（今西祐行）③ 谷間にかかったにじの橋（今西祐行）③	ごんぎつね（新美南吉）③ 夕鶴（木下順二）③
5 年	五月になれば（加藤多一）③ 大造じいさんとがん（椋鳩十）③	雪わたり（宮沢賢治）③
6 年	川とノリオ（いぬい とみこ）③ ブラッキーの話（梨木香歩）③	きつねの窓（安房直子）①

【表 7】 小学校 3 年～ 6 年の物語教材（東京書籍）

	上	下
3 年	すいせんのラッパ（工藤直子）③ ゆうすげ村の小さな旅館（茂市久美子）③ じゅげむ（川端誠）③	サーカスのライオン（川村たかし）③ 木かざにごろり（金森襄作）③ 手ぶくろを買いに（新美南吉）③
4 年	こわれた千の楽器（野呂昶）③ 走れ（村中李衣）③ 一つの花（今西祐行）③	ごんぎつね（新美南吉）③ 世界一美しいぼくの村（小林豊）③ 木竜うるし（人形劇・脚本）（木下順二）③

5 年	だいじょうぶ だいじょうぶ (いとう ひろし) ① 世界でいちばんやかましい音 (ベンジャミン・エルキン／松岡享子訳) ③ いわたくんちのおばあちゃん (天野夏美) ①	注文の多い料理店 (宮沢賢治) ③ 大造じいさんとがん (棕鳩十) ③
6 年	風切るつばさ (木村裕一) ③ ばらの谷 (高山貴久子) ③ 桃花片 (岡野薫子) ③	海のいのち (立松和平) ③ ヒラシマのうた (今西祐行) ①

【表 8】小学校 3 年～6 年の物語教材 (三省堂)

3 年	ピータイルねこ (岡田淳) ③ うさぎのさいばん (キム＝セシル／かみや にじ訳) ③ わすれられないおくり物 (スーザン＝バーレイ／小川仁央訳) ③ おにたのぼうし (あまん きみこ) ③ えんぴつびな (長崎源之助) ① 手ぶくろを買いに (新美南吉) ③	
4 年	白いぼうし (あまん きみこ) ③ いわたくんちのおばあちゃん (天野夏美) ① ごんぎつね (新美南吉) ③ あたまにつまった石ころが (キャロル＝オーティス＝ハースト／千葉茂樹訳) ① 一つの花 (今西祐行) ③ 皇帝の新しい着物 (アンデルセン／大畑末吉訳) ③	
5 年	カニモトくん (とき ありえ) ① 競走 (佐藤雅彦) ③ 大造じいさんとガン (棕鳩十) ③ あいつの年賀状 (重松清) ① プレーメンの町の音楽隊 (グリム兄弟／高橋健二訳) ③ まんじゅうこわい (石崎洋司) ③	
6 年	竜 (今江祥智) ③ 紅鯉べんごい (丘修三) ① まほう使いのチョコレート・ケーキ (マーガレット＝マーヒー／石井桃子訳) ③ 雪わたり (宮沢賢治) ③ 仙人 (芥川龍之介) ③ (①冒頭語り手) アディ・ニハアスの英雄 (ハロルド＝クーランダー、ウルフ＝レスロー／渡辺茂男訳) ③ 黄金の土 (ハロルド＝クーランダー、ウルフ＝レスロー／渡辺茂男訳) ③	

【表 9】中学校 1 年～3 年の物語教材 (学校図書)

1 年	風呂場の散髪―続岳物語 (椎名誠) ① 兄やん (笹山久三) ③ 木精 (森鷗外) ③ ぬすびと面 (吉橋通夫) ③ 少年の日の思い出 (ヘルマン＝ヘッセ／高橋健二) ① シェーク VS. バナナ - スプリット (ウルフ＝スタルク／菱木晃子訳) ① 二十年後 (オー＝ヘンリー／大津栄一郎訳) ③	
-----	---	--

物語教材の視点布置

2 年	上と外（抄）（恩田陸）③ サーカスの馬（安岡章太郎）① クリスマスの仕事（田口ランディ）① 坊ちゃん（一・抄）（夏目漱石）① 走れメロス（太宰治）③ 種をまく人（ボール＝フライシュマン／片岡しのぶ訳）キムの話①・アナの話①・ウエンデルの話①
3 年	Water（吉田修一）① ふっくらと（北村薫）① 輝ける闇（開高健）① 握手（井上ひさし）① 黒い雨（井伏鱒二）① 少年一海（芥川龍之介）③ 故郷（鲁迅）① 夕空晴れて（伊集院静）③（①近似） 灯台（アルトゥーロ＝ヴィヴァンテ）①

【表 10】中学校 1 年～ 3 年の物語教材（教育出版）

1 年	暗やみの向こう側（今江祥智）③ ベンチ（ハンス＝ペーター＝リヒター／上田真而子訳）① オツベルと象（宮沢賢治）③ 少年の日の思い出（ヘルマン＝ヘッセ／高橋健二訳）③ 蜘蛛の糸（芥川龍之介）③
2 年	タオル（重松清）③ 夏の葬列（山川方夫）③ ごんぎつね（新美南吉）③ 走れメロス（太宰治）③ 坊ちゃん（夏目漱石）①
3 年	みどり色の記憶（あさの あつこ）③ 不思議の国のアリス（ルイス＝キャロル／河合祥一郎訳）③ 故郷（鲁迅／竹内好訳）① 最後の一句（森鷗外）③ バースディ・ガール（村上春樹）①

【表 11】中学校 1 年～ 3 年の物語教材（東京書籍）

1 年	遠い山脈（杉みき子）③ さんちき（吉橋通夫）③ 少年の日の思い出（ヘルマン＝ヘッセ／高橋健二訳）③ トロッコ（芥川龍之介）③ そこに僕はいた（辻仁成）①
2 年	卒業ホームラン（重松清）③ 走れメロス（太宰治）③ 坊ちゃん（夏目漱石）① カメレオン（アントン・チェーホフ／原卓也訳）③

3 年	形（菊池寛）③ 風の唄（あさの あつこ）③ 故郷（魯迅／竹内好訳）① 最後の一句（森鷗外）③ いちご同盟（三田誠広）①
-----	---

【表 12】 中学校 1 年～ 3 年の物語教材（三省堂）

1 年	空中ブランコ乗りのキキ（別役実）③ タオル（重松清）③ トロッコ（芥川龍之介）③ 少年の日の思い出（ヘルマン＝ヘッセ／高橋健二訳）③ 注文の多い料理店（宮沢賢治）③ 森の地図（阿部夏丸）③ アイスクャンデー売り（立原えりか）①
2 年	走れメロス（太宰治）③ 小さな手袋（内海隆一郎）① 蒼いみち（小澤征良）① 幸福（安岡章太郎）① 夏を見上げて。（あさのあつこ）③ 凧になったお母さん（野坂昭如）③
3 年	猫（トーベ＝ヤンソン／渡部翠訳）③ 高瀬舟（森鷗外）③ 故郷（魯迅／竹内好訳）① 吾輩は猫である（夏目漱石）① 終わりのない散歩（石田衣良）① デューク（江國香織）① 二十年後（オー＝ヘンリー／金原瑞人訳）③ 鉛筆削り（村上春樹）① 缶入りドロップ（小川洋子）③